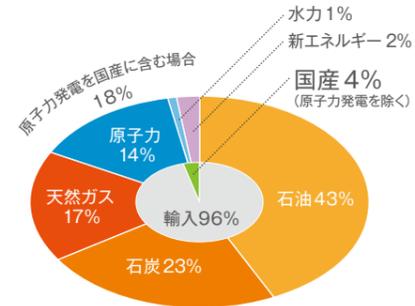


## さまざまな電源を最良の組合せで利用する。 それがベストミックスの考え方です。

電気の安定供給に向けて、エネルギーセキュリティが大切です。

エネルギー自給率が4%しかなく、エネルギー資源を海外からの輸入に依存する日本にとって、電気の安定供給に向け、エネルギーセキュリティ(安定的なエネルギー源の確保)は、今後ますます大切になっていきます。

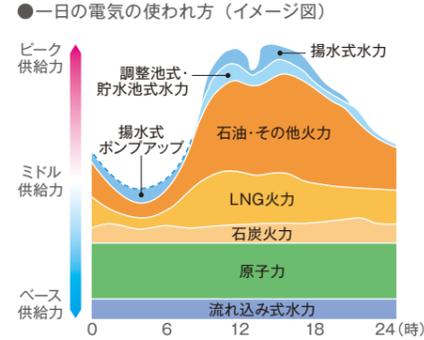
●輸入に依存する日本の一次エネルギー



出典: OECD「ENERGY BALANCES」(2010Edition)  
 ※石油、石炭、天然ガスの中に国産が合計で約1%含まれています。  
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

各電源の最適な組合せ「ベストミックス」をすすめています。

関西電力では安定したエネルギー源の確保をめざして、特定の資源に偏ることのない、多様なエネルギー源の組合せを推進しています。それはエネルギーセキュリティだけでなく、環境負荷や経済性の面など総合的に勘案した最適な組合せをめざすものです。これを電源の「ベストミックス」と呼んでいます。関西電力のベストミックスは原子力発電をベース電源とし、ピーク時の電力需要には火力発電などで対応する構成になっています。



## 安定した電力供給のために、 安定したエネルギー資源の確保に取り組んでいます。

ウラン鉱山の開発などに参画し、原子燃料の長期安定確保に取り組んでいます。

2000年頃から、新興国でのエネルギー需要増加や地球温暖化問題などを背景に、原子力発電の評価は高まってきました。こうした中、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、原子力発電から撤退を表明する国がある一方、従来の原子力発電の拡大や導入を進めている国もあり、ウラン資源を取り巻く環境の先行きは不透明であります。関西電力としては、低炭素社会、資源高・制約リスクなど、将来を見据え、引き続き原子燃料を安定確保していく考えであり、ウラン資源確保プロジェクトにも参画しています。2006年にカザフスタン共和国の鉱山開発プロジェクトに参画したほか、2008年から2009年にかけて、関西電力が出資する日豪ウラン資源開発(株)を通じ、オーストラリアにおける探査プロジェクトや事業化調査に参画するなど、原子燃料の安定調達に努めています。



●オーストラリアのウラン鉱山開発現場



●関西電力のLNG輸送船「LNG EBISU」

調達チェーンの強化により、火力燃料の安定調達に努めています。

関西電力は、オーストラリアのブルート LNGプロジェクトに参画し、火力発電の燃料となるLNG(液化天然ガス)の長期購入に関する契約を締結しました。2012年以降の主要LNG調達源に位置づけるとともに、プロジェクトから得られる事業収益を新たな収益源の一つとして考えています。また輸送力を強化するため、関西電力初の自社船「LNG EBISU」をはじめ、2010年の舞鶴発電所2号機の運転開始により石炭使用量が増加することから、石炭輸送船3隻「MAIZURU DAIKOKU」、「MAIZURU BENTEN」、「MAIZURU BISHAMON」を導入いたしました。こうした生産・輸送・受入れの各部に関西電力が積極的に関与することで、調達チェーンを強化し火力燃料の長期安定確保に努めています。

